

5-4 内部統制で変わる業務活動

1 チェック機能の強化

業務に内在するリスクを低減するためには、確認や承認といったチェック作業が必要不可欠であり、正しい企業活動を維持する上で重要な役割を担っています。

しかし、一見チェックのプロセスが有効に機能しているように見えても、実体を改めて検証してみると、実はまったく無意味なチェック作業が行われていたり、本来必須とされているチェック作業が疎かにされていたりすることがあります。

これを機に、業務フローのどこにどのようなレベルのチェック機能が必要なのか、また、どのような目的で誰がチェックすべきかを見直し、チェック機能が有効に働く仕組みを実現する必要があります。



たとえばこう変わる!

現状

- 同一人物による申請、承認処理
- 内容を理解していない者による承認・確認作業
- パスワードの共有
- 許可されていない申請処理の代行

内在するリスク

- ミスや不正の垂れ流し
- 問題発見の遅れ
- 不正な業務処理

内部統制の例

- 各プロセスに必要な確認・承認作業についての明確なルール、および例外処理についての手順書の作成
- 承認者に対する適切な権限設定

業務上の効果

- ミスや不正のない正しい業務処理の遂行
- チェック機能の有効性の確保とその証明
- 問題点の早期発見と迅速な対応
- 例外処理への一律な対応

